

# ともに生きる

命・生き方

小学校高学年

中学校

高校

社会

道徳

その時 歴史が動いた  43分

## 6000人の命を救った外交官～杉原千畝(ちうね) ビザ大量発給決断の時～

(2001年放送)

### この番組の良さ



#### 実話をもとに考える社会正義

第二次大戦中の1940年夏、リトアニアの領事代理・杉原千畝は、ナチス・ドイツに迫害されたユダヤ難民6000人にビザを発給し、命を救います。番組では、公表された千畝の自筆メモや夫人の証言などから、千畝が官僚の手続きにとらわれず、人道的見地に立って多くの命を救った経緯が描かれています。実話に心が揺さぶられ、社会正義について考えることができます。

#### 杉原千畝の生き方について知る

外務省は戦後、本国の訓令に反したという理由で千畝を退職させます。しかし、千畝生誕100周年に当たる2000年、正式に謝罪をし、千畝の名誉は回復されました。近年教科書や歴史書などで取り上げられたり、映画化されたりして注目を浴びている千畝について、歴史的な資料、証言などから、さらに詳しく知ることができると同時に、日本人としての誇りを感じることができる番組です。

### 番組活用のポイント

#### 道徳科の授業で扱う

道徳科では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳的な価値について理解し、自己の生き方についての考えを深めることが大切です。本番組は、社会正義の実現について、多面的・多角的に考えることができる番組です。ビザの発給を訴え日本領事館に押し寄せる大勢のユダヤ難民。何度も日本政府にビザ発給の許可を頼み込む千畝。許可はできないという外務省からの回答。ソ連の進駐により国外退去の期限が迫る中、葛藤する千畝の思いを考えることから、社会正義の実現について深く考えていくことができます。政府の命令に従うことが当然の時代に、自らの危険を顧みず、人道主義・博愛精神を貫き通した千畝。ビザを書き続ける千畝を支えていたものとは何かを考えることを通して、差別や偏見に立ち向かい、公平で公正に行動しようとする態度について深く考えていくとよいでしょう。

#### 今日的な課題と関係付けて考える

今日的な課題の一つに、いじめの問題があります。差別や偏見がいじめにつながることは、小学校高学年から中学校の児童生徒であれば、理解できるようになります。一方で、自分自身の問題として捉えたり、立ち向かっていったりすることは容易ではありません。本番組を視聴することで、厳しい時代にありながら、強い意志をもって正義を貫いた千畝の思いに共感し、いじめなどの場面に出会ったときも、強い意志を貫こうとする実践意欲を育てることにつながります。

また本番組は、人権、平和といった社会の持続可能な発展を巡る問題と深く関わる内容です。歴史の一場面として捉えるだけでなく、現代的な課題を考える一助として扱うことが重要です。

学習展開例

対象校種：小学校 授業時間 45分

対象教科：6年道徳



沼津市教育委員会  
指導主事 加納 真

執筆

# 6000人の命を救うビザ 杉原千畝の生き方から社会正義について考える

## 児童生徒の思考の流れと活動の流れ

公正・公平って難しそうだけど、できていることもあるんだな

なかなか、〇〇さんのようにはできそうもないな



番組部分視聴 (3分:開始~2分47秒)  
命を救うビザって、どのようなものだろうか？

番組部分視聴 (20分:13分26秒~33分5秒)



領事館前で日本の通過ビザの発給を求めるユダヤ難民



ビザの発給を認めないという外務省からの回答



ビザの発給を決断した杉原千畝

外交官として  
政府の決定に従うべき

政府の決定に背いても  
ビザを発給すべき

- ・政府の決定に背いたら、自分も家族も罰せられる
- ・従えば、将来は約束されている

- ・自分がビザを出せば、目の前のユダヤ人たちを救うことができる
- ・人として、目をつぶることはできない

どうして国策に逆らってまでビザを書き続けたのか？

- ・自分や自分の家族だったらと考えたら、放っておけない
- ・目の前で苦しんでいる人を見殺しにはできない

- ・差別や偏見はいけないことだ
- ・人の命よりも大切なものはない。杉原は公正・公平が大事だと思っていたので、政府に逆らっても助けた。

自分だったらできるだろうか？

- ・人に流されることなく、日頃から自分の考えをしっかりとつことが大切だ
- ・誰に対しても差別をせず偏見をもたずに接していきたい



「勇気ある人道的行為を行った外交官 杉原千畝氏を讃えて」と刻まれたプレートが外務省に設置された

## 教師の支援と評価

- 教師が見つけた公正・公平な子供の言動を紹介し、それに対する考えを尋ねる。
- 番組の冒頭を視聴することで、時代背景やユダヤ人への迫害の事実、杉原千畝が発給した命を救うビザについて知り、教材への関心を高める。

- 政府にビザの発給の許可を求める千畝と許可はできないという外務省、窓の外でビザの発給を待ち続けるユダヤ人たちと家族の言葉。国外退去期限が迫る中、外交官として葛藤する千畝の心情を話し合うことを通して、価値に迫っていく。

- 価値に対する多面的な見方を引き出すために、食事もろくに取らず、朝から夕方遅く、手が動かなくなるまでビザを書き続けた千畝を支えていたものは何なのか議論する。

- 価値理解を基に、日常生活に目を向け、今までの自分自身を見つめてみるように促す。

- 時間が確保できるのであれば番組の続きを視聴し、人道主義を貫き通した杉原千畝の生き方から、持続可能な社会について視野を広げたい。

とせしむる